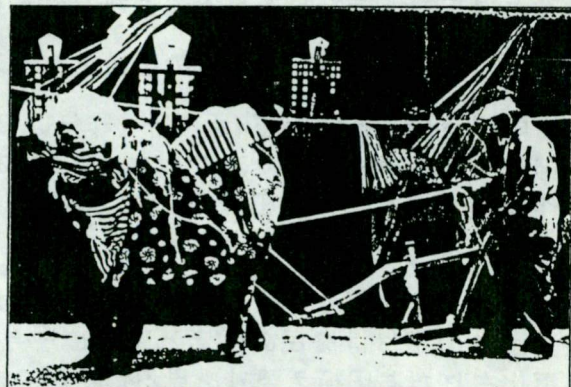


岡山のお田植え祭り (36分)

企画 国立歴史民俗博物館／協力 文化庁

〔企画意図〕

わが国の祭りや年中行事には、稲作の豊饒を願って行われるものが多くあります。各地の神社などで行われるお田植え祭りもその代表的なひとつです。お田植え祭りの行事には、農作業の所作を模擬的に行う芸術的な要素の強いものや、祭りの執行組織に特色のあるものなど、共同体の特質や変遷によってさまざまな形態があり、民俗資料として貴重なものです。この映画は岡山県各地に残っているお田植え祭りの行事の記録と共に、農民の豊作への祈りを描きます。



〔主な撮影箇所〕

中山神社（津山市） 布施神社（富村） 長田神社（八束村）
日咩坂鍾乳穴神社（新見市） 吉備津彦神社（岡山市） 岡山県立博物館

〔製作スタッフ〕

製作 宮下 英一	照明 前田 基男	嘉本 哲也	初観 長沼 よし子
脚本 鈴木 康敬	解説 寺尾 聰	中山 憲一	タテ 読売スタジオ
小林 治	録音 鈴木 武夫	撮影 柏木 茂幸	現像 イマジカ
撮影 三角善四郎	選曲 小川 正城	長井 和久	タイトル 菁 映 社
八幡 洋一	演出 日向寺 太郎	多田 勉	

株式会社 英映画社

〒104東京都中央区八重洲2-6-13幸田ビルTEL03(3281)3414FAX(3281)4680

[あ ら す じ]

厳しい自然を相手に米を作ってきた人々は豊作を願い、神に祈りを捧げてきました。雪の田圃で祈りを捧げる農民……。正月に行われる百姓始めの行事です。

岡山の山深い富村にも遅い春が訪れ、布施神社では5月5日のお田植え祭りの準備が頭屋と呼ばれる祭り担当地区の農民の手で進められています。

布施神社の祭りに先立って4月29日に行われる、津山市の中山神社のお田植え祭り。御輿に御霊が移された後、大地を踏みしめ田を打ち返す仕草の鍬振り神事行われます。

風薫る5月5日、布施神社の祭り当日、頭屋の人々の手で祭りが行なわれます。牛鍬・馬鍬による荒起しや代掻き、農民二人が滑稽な所作で農作業の仕草を演じる鍬代、早乙女役の男たちが後退りしながら榊の葉を撒く田植え、そしてこの祭りの呼び物、殿様と福太郎が境内に登場します。殿様は決して笑わず武張った仕草で、朗々とその年の稲の作付けを指示します。道化た福太郎と殿様との軽妙なやりとりが見物人たちの笑いを誘うこの祭りのクライマックスです。

同じ日、真庭郡八束村の長田神社でもお田植え祭りが行われています。ここでは、頭屋は代々世襲で、準備から祭りの執行まで決められた人々が取り仕切っています。菖蒲を稲の苗に見立ててお供えすることから『菖蒲祭り』と呼ばれ、布施神社とは異なった祭りを見ることができます。

そして祭りがすむと大忙しの田植えシーズンを迎えます。

梅雨明けの時期、旧暦6月11日（昨年は7月8日）に行われる新見市の日岬坂鐘乳^{ひめさかなら}穴^{あな}神社のお田植え祭り。ここでは、神主のお清めの神楽の後、農作業のさまざまな所作が演じられます。田植えでは、稲苗に見立てられた杉の葉を投げ合う素朴な行事が伝えられています。

真夏の太陽が照りつける8月2～3日に行われる岡山市の吉備津彦神社のお田植え祭り。この祭りは農民の生活と密着した今までの祭りとは異なり、儀式化され、神事化されたお田植え祭りを見ることができます。

暗闇の中で土地の子供達によって奉納される田舞。お供えの苗が境内の二つの池に設けられたお棚に運ばれ、祝詞を奏上する御斗代神事が深夜まで行われます。そして翌日の夕方行われる御幡神事で祭りは終わります。

秋、農民のつらく厳しい農作業の苦勞が実を結び、重く穂をたれる稲田が黄金色に染まります。

岡山県下に見られるさまざまな形のお田植え祭り。それらは、形態が違っても、その土地に生き、米を作ってきた農民の豊作への熱い祈りを私たちに教えてくれます。

株式会社 英映画社

〒104東京都中央区八重洲2-6-13幸田ビルTEL03(3281)3414FAX(3281)4680